

私は今回の企業大学訪問で外務省を訪れました。霞が関、桜田通りに位置する外務省は、ガラス張りの建物に、多くの警備員が周囲に立っており、日本の外交の中心であることが外観から感じられました。

外務省では、まず二高 OB であり、今回の訪問を準備してくださった稲垣さんから、外務省でどのような仕事をされているのか、大学でどのような勉強をされていたのかなどのお話をさせていただきました。

その後、国際会議に使われるという会議場で、国連開発計画（UNDP）に携わる方からお話をいただきました。

私は、将来 JICA や国連に努めたいと思い、その上でこのお話はとても貴重な体験となりました。私は、将来国際協力の仕組み作りをしたいと思い、特に JICA に努めたいと思っていました。しかし、JICA と外務省での開発協力はどのように違うのかという質問を試みたところ、「JICA は現地での計画の実行が主な仕事で、外務省はその計画や仕組みを作ることが仕事」という答えをいただき、自分のしてみたいことは外務省のほうができるのではないかと感じました。

そのほかにも、外務省などの国際機関で働くために必要なことを教えていただくことができました。特に、「国際関係の情報は東京に集まるから、東京の大学のほうが知識も機会も得られる」と知り、確かにその通りだなと思いました。

また、外務省と国連は連携する機会が多く、そのため外務省から国連に就職する人も少なくないそうです。ここで、「外務省から国連に行くことはできるが、国連から外務省に務めるのは難しい」と知り、やはり自分のやりたいことは外務省に行けばできるのではないかと感じました。

ほかにも、日本人と外国人との違いについてたくさんのお話を聞いていて、外務省の人は本当に外国の人とたくさん接しているのだなと実感できました。

今回の企業大学訪問で、強く外務省に魅力を感じ、ここに務めたいと思いました。そして、外務省、OB・OG 懇親会で、外務省などに務めている人は東京大学出身人が多いということを感じました。

外務省に務めるために、これから勉強をきちんとしていきたいと思いました。

そういったモチベーションが得られた点、将来の目標がかなり明確になった点から、この企業大学訪問は大変貴重な経験となりました。

OB・OG 懇親会について

OB・OG 懇親会ではかなり具体的な話、例えば教科ごとの勉強法などを聞くことができました。

初めにお話を聞いた吉田さんは、文系とはどのような学問で、理系とはどんな科目かをとても深く考えていて、すごいと思うと同時に、勉強をしていく上ではこの科目はどのような学問なのかを考えることも大切なのかなと思いました。また、私が特に重視している英語については、英検を受けるといいというアドバイスをいただきとても参考になりました。また、吉田さんは法学部で、フランスなどヨーロッパの古文書を読み、研究をしているそうで、法学部と一口に言ってもたくさんの道があるのだなと思

いました。

次にお話しを聞いた広野さんは入学後の進学振り分けで理転するというなかなかない経験をされた方でした。広野さんからは、「本気で部活ができるのは高校が最後。」と言われ、改めて今の部活の時間が貴重であることに気付きました。勉強と部活の両立に悩めるのは高校までなのかもしれないと思い、より真剣に文武一道を追求したいと思いました。

3 人目にお会いしたのは一橋大法学部の狭間さんでした。狭間さんは「世界のどの国が一番伸びるのか？」を調べるために世界一周をした人でした。また世界一周の話だけでなく、一橋大学の魅力、受験についても教えて下さりました。特に受験については、一年生のうちから過去問を解いてゴールまでの道筋を考えるといいとアドバイスを下さり、参考になりました。

このほかにも、たくさんの方からアドバイスをいただきました。

その中で、東大、一橋などの難関大の方たちの共通点を、3つ見つけることができました。

1つ目には、「勉強を楽しんでいる」ということです。それぞれが、好奇心と、強いエネルギーをもって大学生活を送っていると思いました。

2つ目には、「なぜその勉強をするのか、それはどのような学問なのか。」をしっかりと観察し、考えていると感じました。

そして最後に、「自分で取捨選択ができています。」ことを強く感じました。それができているからこそ、効率よく勉強できているのだと思います。そしてこれは前述の2つがきちんとできていないとできないことなので、まずは1, 2, をしっかり考えていきたいと思いました。

このOB・OG懇親会を通して、難関大学に受かるのはどのような人なのか自分で考え、それが少しつかめたと感じます。この大切な経験をもとに、これからの高校生活、広くは自分の考え方についてもいい変化が得られていけばいいと思いました。

また、関東圏の大学にも興味がわきました。

東京大学訪問について

東京大学は、以前OCで見学した東北大学のようなガラス張りの新しい雰囲気ではなく歴史を感じるレンガ造りのキャンパスでした。赤門や安田講堂など本の中に出てくるような建造物もあり、さすがは日本一の大学だなと感じました。

私が主に見学したのは経済学部、理学部、法学部です。

経済学部は事前予約をしていなかったため中を少し見ただけでしたが、近代的な中の構造、学部内の雰囲気が涼やかな感じで、できる人がいるというオーラがなんとなく感じられました。

理学部では二つの模擬講義に参加することができました。一つ目は生物学、二つ目は地球科学の講義で、どちらも面白かったです。講義をしてくださった教授の方たちの、かなりぶっちゃけた裏話や、専門分野からそれた雑学などを話す姿から、「何かを学ぶことが好きな人が集まっている大学だな。」感じました。また、理学部は研究が主体であるからか実地でのフィールドワークの様子が多く語られていました。また、その調査をもとにIT機器を用いて研究をしているようで、かなり複雑な機器も使用しているよう

で、さすが東大だなと感じました。

模擬講義を2時間も受けることができた法学部では、法学、政治学の模擬講義をそれぞれ45分ずつ受けました。

初めの法学の講義は、税の仕組みづくりの歴史について、租税法の専門家として著名な増井先生のものでした。中学校の授業では、ピンポイントで日本の税制についてでしたが模擬講義では世界規模で税制について、例えば国ごとの税制による利害関係など広い視点から「税」について考える内容で、とても面白かったです。

2限目の政治学では、「人は平等を求めるのか？」というテーマの講義でした。

初めは哲学なのかな？と思いましたが、実際は思考実験をもとにした実験とパターン分けでとても現実的かつ分かりやすかったです。実際に東大生に行った実験の結果なども見ることができ、大学の研究は自由だなという印象を受けました。

法学部での模擬講義は最も面白く、やはり大学ではこのような研究をしてみたいなと思いました。

東京大学見学は、「東大に行くのなんて無理だから参考までに…」と考えていました。しかし、前日の企業大学訪問で外務省に行きたいと思い、それには東大が一番の近道だ！と思ってから東大見学をしてみて、ここで勉強したいという思いが強くなりました。

難しいけど、目指したくなるような魅力が東大にはありました。

この気持ちを忘れずに勉強して行って、東大を狙える位置につけたいと思います。